



平成 29 年 8 月 8 日

各 位

会 社 名 夢 展 望 株 式 会 社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 濱 中 眞 紀 夫  
(コード：3185 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 専 務 取 締 役 管 理 本 部 長 田 中 啓 晴  
(TEL. 072-761-9293)

(開示事項の変更) 「子会社に対する債権取得及びそれに伴うその他の収益の発生 (連結)  
のお知らせ」の変更のお知らせ

1. 株式会社トレセンテの子会社化に伴う会計処理について

当社は、平成 29 年 5 月 16 日付「子会社に対する債権取得及びそれに伴うその他の収益の発生 (連結)のお知らせ」(以下「本件お知らせ」といいます)でお知らせいたしました会計処理の方針に関しまして、債権評価益 561,522 千円を「その他の収益」として平成 30 年 3 月期の連結決算において計上する見込みであることをお知らせしておりました。

当該会計処理は、株式会社ニッセンホールディングスから 1 円で取得した株式会社トレセンテ (以下「トレセンテ」といいます) に対する貸付債権 561,522 千円につき、債権額と取得額との差額 561,522 千円を収益として認識することを見込むものでした。

しかしながら、その後トレセンテの子会社化に係る取引 (以下「本件取引」といいます) を総合的に検討し、会計監査人とも協議を重ねました結果、当該貸付債権の取得は、それ自体を単独の取引と評価するよりも、同時に実施されたトレセンテの子会社化の一部を構成する取引と評価することが、本件取引の実態をより適切に把握できると判断した結果、債権評価益ではなく、負ののれん発生益を計上することとなりました。

そして、本件取引時である平成 29 年 4 月 28 日におけるトレセンテの資産及び負債の公正価値を第 1 四半期連結決算にあたり詳細に慎重に検討した結果、別紙の表の通りとなり、負ののれん発生益が 569,152 千円発生することとなりました。この内容に誤りがないか慎重に精査を重ね、本日変更のお知らせを発表するに至りました。

これにより、本件お知らせで「債権評価益」561,522 千円としていたものは、「負ののれん発生益」569,152 千円となります。

2. 今後の見通し

本件に関しましては、本日付で公表いたしました平成 30 年 3 月期第 1 四半期決算短信に反映しております。

以上

## (別紙) 「負ののれん発生益」569,152千円の算定根拠

項目		金額 (千円)	備考
本件取引に関する取引額			
トレセンテの純資産		7,629	本件お知らせでは、トレセンテの個別財務諸表上の純資産を▲133,212千円としておりましたが、企業結合時の資産及び負債の公正価値の見直しにより145,243千円増加し、その他IFRSの適用に伴う資産及び負債の修正等により4,402千円減少しております。
トレセンテに対する貸付債権		561,522	
合計	A	569,152	
本件取引に関する取得対価			
トレセンテ株式		0	
トレセンテに対する貸付債権		0	
合計	B	0	
のれん (取得対価－取得額)	B-A	▲569,152	マイナスのため負ののれんとなります。